

月刊

エルダリープレス

～シニアの快適生活を応援する～ シニアライフ版

2015年(平成27年) 12月号 第16号

(株)高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL.03-3543-6852(編集部) 発行人 網谷敏数
http://www.koureisha-jutaku.com

—Elderly Press Newspaper—

第11回 安全で快適な旅のために

介護事業者の保険外サービスとして、おでかけや旅行に積極的に取り組もうという動きが近年活発になってきました。介護保険法の改正とともに制度外サービスを充実させて高齢な利用者のQOLの向上と事業者経営の安定化をはかるということでも、ヘルスケアを目的とした外出サービスやユニバーサルツーリズムは国も積極的な後押しをはじめめています。

あ・える倶楽部は、介護旅行の老舗ということで、こうした事業化への相談をよく持ち込まれます。やって来るのは、介護事業者や旅行会社その他、地域でタクシー事業や福祉活動をするNPOなど自治体の生活支援サービスを担っている方たちです。

同じ福祉サービスでも、その生い立ちが地域により、職種により、随分違うものだと感心させられることも少なくありません。彼らと話していると事業化への動機も様々で、私自身この仕事を客観的に



▲家族あいプロジェクトでふるりの山形を訪ね、久しぶりに一家そろってお蕎麦屋さんへおでかけです

民間・NPOともに良さが

にみることでできるようになるのを面白く感じます。当然ながら民間事業者は採算重視で、この事業に参入したら儲かるかどうかということが一番の関心があります。一方で、地域の暮らしをきかすというところ、NPOは、高齢者サービスのあるべき姿を訴えつつ、地元で雇用をつくりだそうという目的もみえて、行政の補助金を頼りながら事業化しているところという意図がわかります。

私は介護が必要な高齢の人が、その希望にそって墓参りや温泉に出かけられるようになること、気軽に友人を訪ね、身内のところへ行けるようになることが大事なことだと思うので、民間だろうとNPOだろうと、サービスはどちらがやっても構わないと考えています。

核家族化がすすんだ現代社会では、こうした取り組みが広がることで、離れて暮らす娘や息子の分身のように、お出かけを支え続けてくれる人が地域に育っていくことが、今は一番大事だろうと思っています。

安全! 快適! **介護旅行**
SPIあ・える倶楽部社長
篠塚恭一



1961年千葉県生まれ。大手旅行会社の乗員を経て91年(株)SPI設立。ホスピタリティ人材の育成推進に携わる。95年よりトラベルヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える倶楽部」の普及に取り組む。06年NPO法人日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他。(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役社長、NPO日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会理事長